

## 「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学 農学部 食料・環境経済学科2年 藤野 佑

今回、私は、大きく、長年興味を持っている中国を訪れたいという思いと、来年の台湾への派遣留学に向けて中国語の学習を更に深めたいという思いからこのプログラムに参加した。結果としては、多くの収穫を手にすることができたと思う。まず、中国に対する見方が少なからず変わった。昨今の日中関係は良好とは言い難いものがあり、中国訪問を楽しみにする一方で、多少の緊張感や不安も持ってこのプログラムに臨んだのだが、今回、西安交通大学の学生たちに非常にお世話になったり、仲良くなったり、交通大学の先生の授業を受け、交流して、当初の不安は払しょくされた。彼らは、本当に親切にしてくれ、素敵な方たちで、私は彼らのことが実に好きになった。彼らとは、両国の社会問題や政治問題についても話をしたが、今の日中関係を憂いており、ある先生が、“自分の目を見て、耳で聞いて、考えてください。そして、今の状況は少しおかしいから、きっと良くなるはずだ。若い君たちが次の社会を作っていくから、このような交流はとても大切です。”と仰っておられたのを、中国の地でとても歓迎されて聞けたのは、非常に印象的なことであった。授業では、兵馬俑といった歴史的文化についてや、もちろん中国語について、そして中国の社会問題についても学んだ。就職難や不動産価格上昇、人口問題、一人っ子政策の欠点、そして社会を覆う不安やストレス、自殺といった問題について学んで、そのいくつかが全体的な苦しさは日本とよく似ている部分も少なからずあると感じて、非常に興味深かった。私がそこで思ったのは、似たような課題を抱える両国が手を取り合うことは有効なのではないかということであった。ここで、前述の先生が仰るように、このことに気付いていて、自分の頭で考えられる私たちが努力を続けることが重要だと思った。私たちが、国をよりよくできる可能性を持っていると感じた。そして、そのためにより一層学業に励もうと思った。

プログラム内では、兵馬俑見学や長恨歌鑑賞を始めとして西安の歴史や文化に多く触れることができ、非常に嬉しかった。中国の文化芸術に感銘を受けると同時に、もっと日本の文化にも精通したいと強く思ったのも収穫である。私は、来年、国立台湾大学へ派遣留学する予定であり、今回中国語を学び、日常生活で話す経験をして、少し自信をつけると同時に、自身に足りない部分がとても明確になり、次に向けての更なる学習を始めている。今回のプログラムは、得るものが非常に多く、参加させて頂けて、本当に良かった。そして、必ず次へとこの経験を繋げていきたい。